

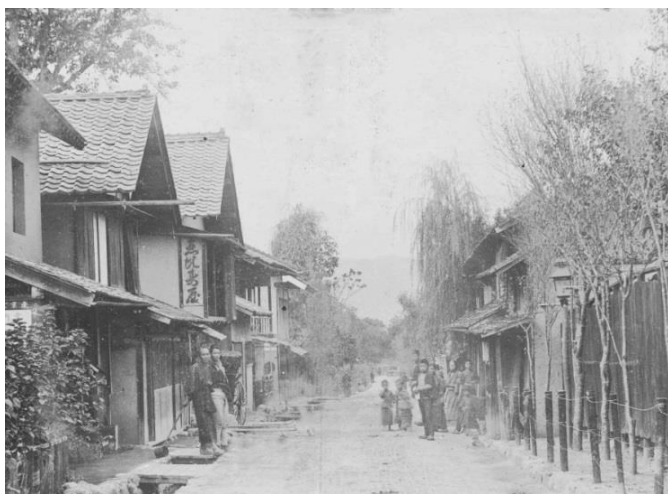
明治 150 年記念展示

「史料に見る明治の小布施」を 開催しています

江戸幕府を中心とする封建的支配が終わり、明治になって近代国民国家への第一歩を踏み出した日本は、内閣制度の導入、大日本帝国憲法の制定、立憲政治・議会政治の導入、鉄道の開業や郵便制度の施行など技術革新と産業化の推進、義務教育の導入など多岐にわたる近代化への取組を行い、国の基本的な形を築き上げました。

明治時代の小布施は、初めは近世以来の菜種・木綿などが特産でしたが、年を追って桑園が増加し、養蚕が発達していきます。また、明治 21 (1888) 年に信越本線が開通すると、豊野駅と町組を結ぶ「小布施街道」が開かれ、町場は奥信濃の玄関口となり、養蚕景気と相まって商店街が繁栄していきます。

明治時代の諸制度の改革と文明開化、資本主義の発展の中で、小布施においても近代化が進展し、現代につながるまちづくりの礎が築かれました。明治 150 年に当たり、文書館が所蔵する史料から垣間見える「明治」という時代をご紹介します。(会期は、平成 31 年 4 月 27 日まで)



写真：小布施村の中心街と信越本線豊野駅を結ぶため
開発された「小布施街道」(明治 22 年)



写真：明治4年の「小布施村絵図(部分)」(平松家文書)

幕末の小布施村は、その領知が松代藩の御預所(幕府領の管理を松代藩に委任したもの)と松代藩領とに分かれていました。松代御預所は、明治 2・3 年に伊那県に、同 3 年に中野県に、同 4 年には長野県に管轄が変わっています。松代藩領は、同 4 年の廃藩置県で松代県となり、同年 11 月には長野県の管轄となりました。絵図の左側には、小布施村百姓代庫蔵外 8 名の村方三役の連名があり、中野御懸御役所と記されていることから、中野県あてに作成された絵図と思われます。明治 4 末年と記されていますが、中野県は明治 4 年 6 月 22 日には長野県に変わっていることから、この絵図は、明治 4 年の上半期に作成されたものと思われます。

- 「古書」を公開しています -

文書館では、今回の展示に併せて、明治時代を中心とした「古書」を公開しています。

この機会に、ぜひご覧ください。

※ 川上家古書 779 点、馬場家古書 309 点



写真：展示中の古書の一部(川上家文書)